

# 多様な主体が力を合わせ、持続可能な社会づくりの担い手を育成します!

～平成30年度 文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」～

- 文部科学省では、多様なステークホルダーの参画によるESDコンソーシアムの構築と、「ESDの深化」を図る高度なESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域及び全国規模でのSDGs達成の推進に寄与することを目的とした事業を実施しています。
- ESD活動支援センター(全国・地方)と連携し、ESD推進ネットワークを形成します。

## ①ESDコンソーシアム事業【H26～継続】

### ◆ 目的・内容

- 教育委員会及び大学が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにESDコンソーシアムを形成し、地域のESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進。

### ◆ 申請者

- 教育委員会又は大学。

## ②ESDの深化による地域のSDGs推進事業【H30新規】

### ◆ 目的・内容

- ESDに携わる多様なステークホルダーがチームを形成し(ESD-SDGsコンソーシアム)、ESDの深化を図る高度なESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与する。

### <事業メニュー>

- ① ホールスクールアプローチの全国的な普及・推進
- ② 学校教員及びユース世代のESDの実践力強化
- ③ 地域のSDGs達成に向けた課題解決のためのESDの実践
- ④ ユネスコ事業との連携によるESD/SDGsの推進

### ◆ ESD-SDGsコンソーシアム

- ESD推進に関する専門的知見、実績、教育資源、ネットワーク等を有する団体が中心となり、事業の実施に必要なリソースを有するステークホルダーとともにコンソーシアムを形成。

### ESD-SDGsコンソーシアム (イメージ)



\*平成30年度は(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)



文部科学省

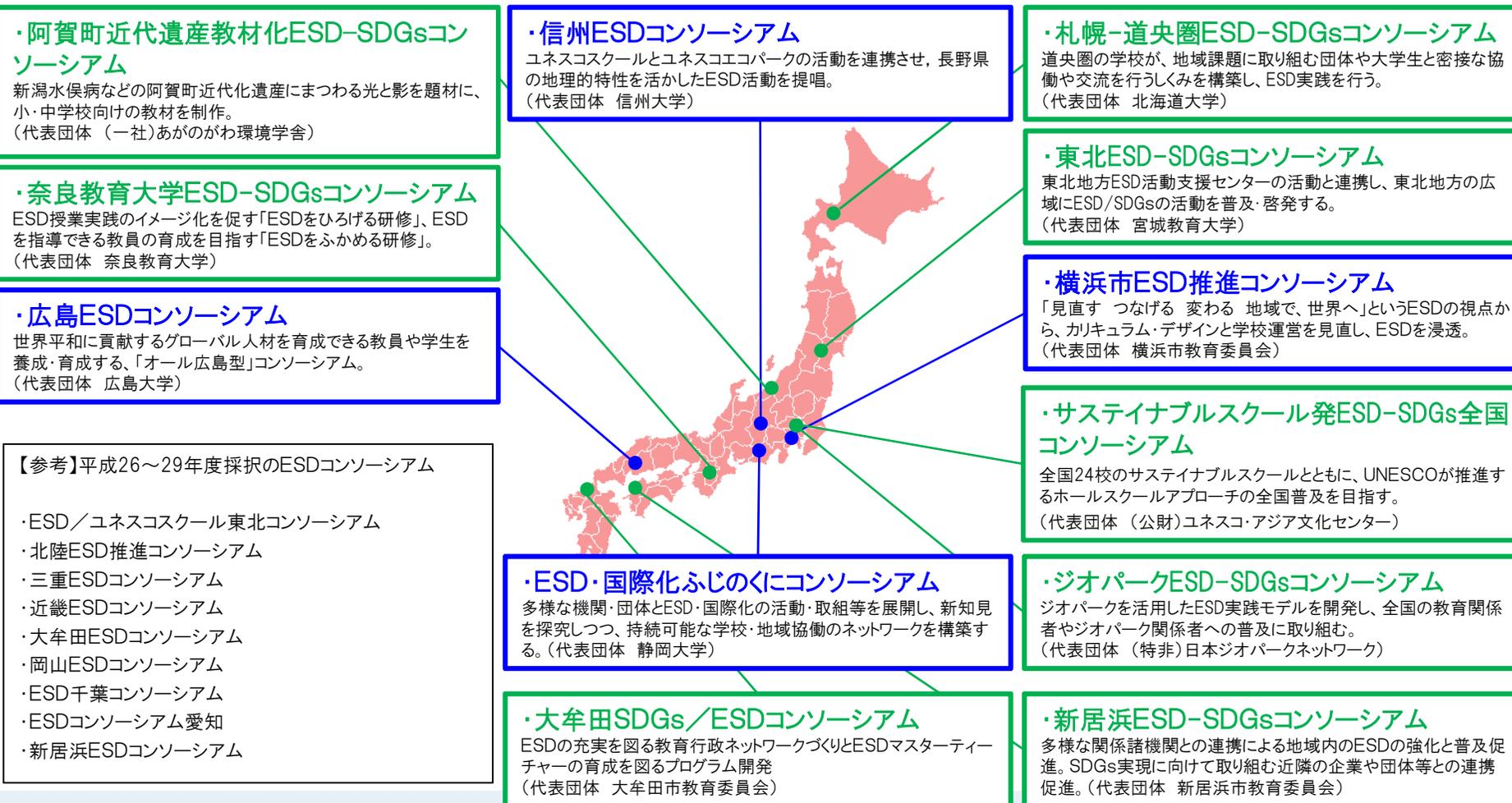
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



# 全国に広がるESD&ESD-SDGsコンソーシアム

- 大学、教育委員会、NGOなどが代表団体となり、学校、企業、商工会議所、ユネスコ協会、専門機関など多様なESD/SDGs関係団体と協力し、地域一体でのESDの普及から、特定のテーマに狙いを絞った全国規模のESDの実践まで、全国各地で多様な取組が行われています。

## 平成30年度採択のコンソーシアム



# 札幌-道央圏ESD-SDGsコンソーシアム (代表団体 北海道大学)

地域課題に取り組む団体(“実践人材”)や大学(および“大学生”)、小学校・中学校・高校が、以下のような協働や交流を通じて、地域におけるESD実践を行う仕組みを作り、改善していきます。

- 3者(小学校・中学校・高校、大学生・大学院生、実践人材)をつなぐ仕組みの整備
- 本コンソーシアムを活かした小中高校におけるモデル授業開発・教材開発
- SDGsの実践を体験できるイベント型ノンフォーマル教育の試行

これまで、特定のキーパソンを介して、繋がっていた数多くの団体が、本コンソーシアムを通じて、SNSやwebサイトで情報交換出来るようなシンプルな連携をする。そのことで、コンソーシアムをプラットフォームとして、新たな構成団体の参画を促していきます。また、意欲ある教員・大学生が参加出来るような仕組みを導入します。



札幌大通高校では、札幌市が目指しているフェアトレードタウンへの活動に沿って、ユネスコスクールならではの、フェアトレードに関する教材を開発します。札幌啓成高校の総合学習を利用して、3者が協働することで、どのような、生徒にとっての学び、学校教員・実践人材の出会いがあるかを調査します。枠組みだけを整えるのではなく、協働した教育プログラムの質の保証のしくみ作りをしています。占冠村教育委員会では、小規模校ならではの、留学生(大学院生)や地域の人材による、ESDを実践します。また、構成団体が協働して、ESDの視点を組み込んだSDGsコンテスト(仮称)等を試行します。

札幌啓成高校での(左)教員と実践人材が共に参加した研修、(中)自由な発想による高校生の発表、(右)トナム学校での留学生による中国内の多様性の説明



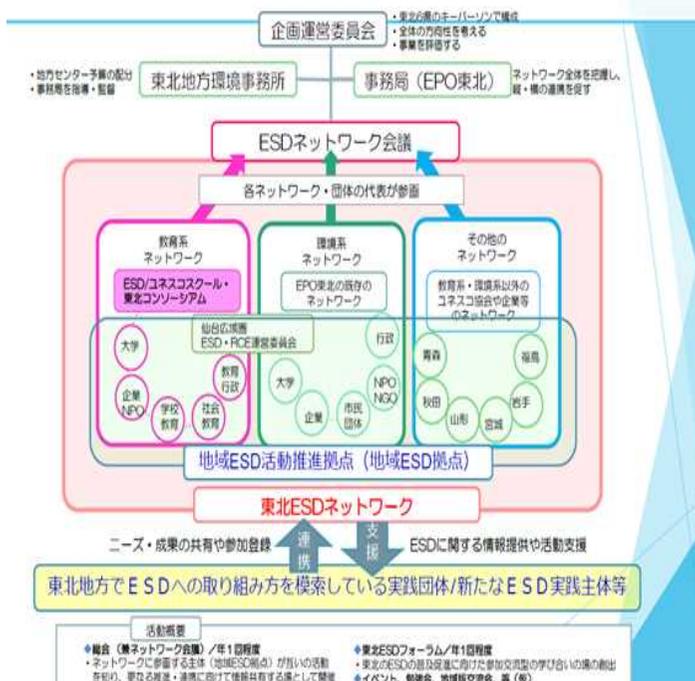
【連絡先】北海道大学 地球環境科学研究院 教授 山中 康裕  
TEL:011-706-2363  
Mail: galapen[α]ees.hokudai.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 東北ESD-SDGsコンソーシアム

## (代表団体 宮城教育大学)

- 2015年以降取り組んできたESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの拠点力とネットワーク力を活かして、学校と地域が連携したSDGsの達成方法を提示する。
- 従来のコンソーシアムで成果をあげている地域をモデルに、ESD/SDGsの地域拠点の作り方のテキストを作成する。テキストには多様な事例を記載し、新規に取り組む活動の参考とする。
- 地域拠点の活動をテキストや研修会を通して可視化し、成果を東北地方ESD活動支援センターの活動に連動させることで、東北地方の広域にESD/SDGsの活動を普及・啓発する。

### 東北地方ESD活動支援センターの組織体制



### 2018年度の主な活動予定

#### 1. 学びあいセミナー/コーディネーター研修会

ユネスコスクールを軸に、学校と地域が連携したESDを推進できるよう理解を深め、活動を可視化させる。



第1回学びあいセミナーの様子

#### 2. 地域研修会の実施/支援

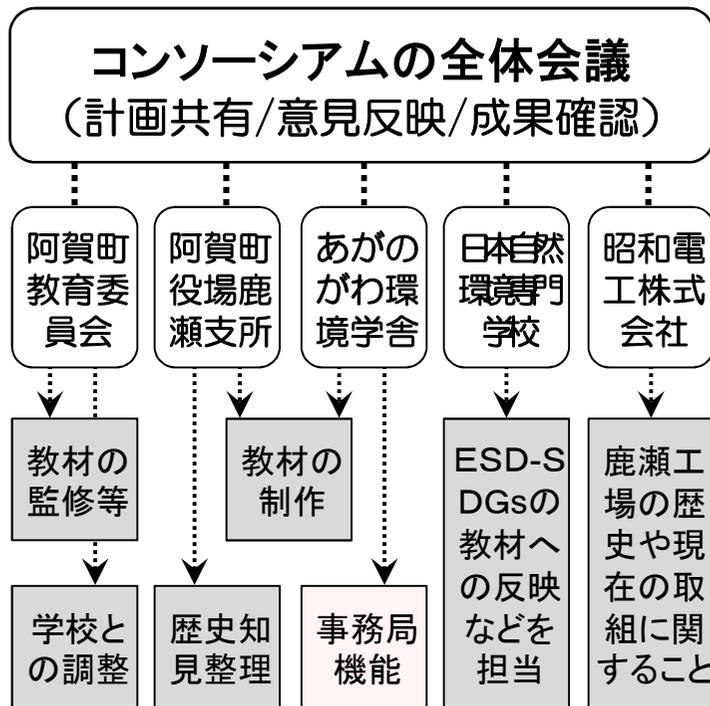
研修会の実施・支援を通して人材育成・交流を行い、学校と地域の連携の力によるESD/SDGsの地域拠点を10箇所育成し、SDGsの達成を目指す。

【連絡先】宮城教育大学 研究・連携推進課(事務局)  
 TEL:022-214-3931 FAX:022-214-3342  
 Mail:kenkyo[α]adm.miyakyo-u.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 阿賀町近代遺産教材化ESD-SDGsコンソーシアム

(代表団体 一般社団法人あがのがわ環境学舎)

- 阿賀町の小・中学生が、日本の近代化に貢献した阿賀町の近代産業の変遷を学びつつ、自らが生まれ育つ郷土への誇りや愛着を失うことなく、近代化の過程で発生した新潟水俣病などの環境問題からも教訓を学び取る力を涵養するため、ESD・SDGsに基づいた阿賀町の近代化遺産の光と影をテーマとする小・中学生向け教材を制作する。
- 阿賀町内の小・中学校も、本教材の完成度を高めるモデル(検証)授業を通じて本プロジェクトに参画。
- 本プロジェクトを通じて光と影の歴史を持つ阿賀町独自の「中山間地域版ESD-SDGs」の確立も目指す。

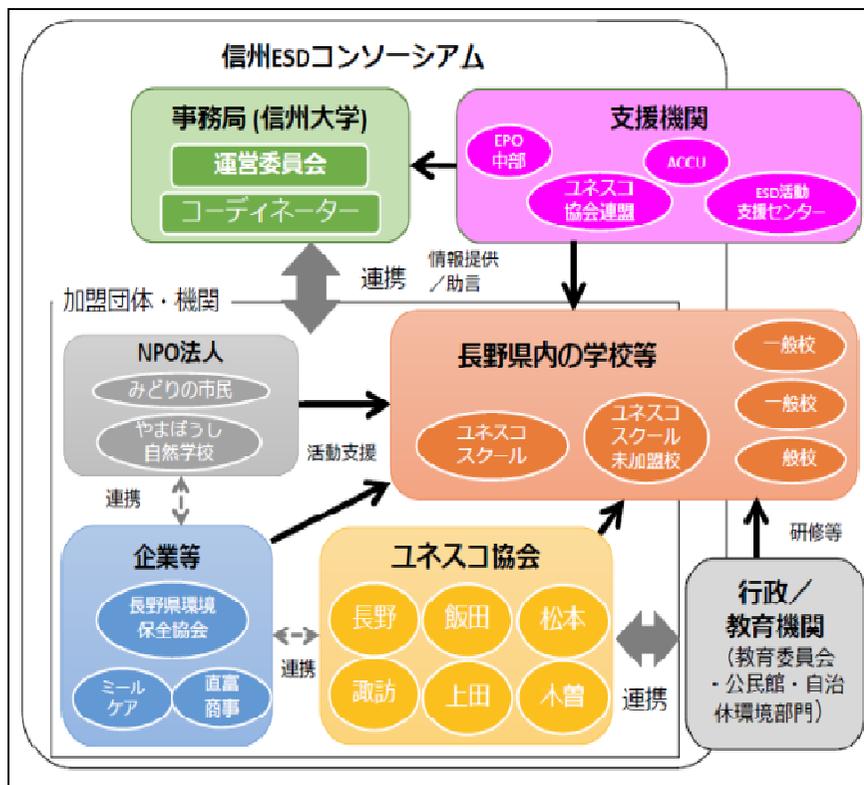


【連絡先】一般社団法人あがのがわ環境学舎 事務局長 山崎 陽  
 TEL:0250-68-5424 FAX: 0250-68-5424  
 Mail: aganogawa[α]niigata.email.ne.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 信州ESDコンソーシアム

## (代表団体 信州大学)

- 恵まれた自然環境を活かした、ユネスコエコパークを活用したESDの普及と実践
- 長野県各地区のユネスコ協会、NPO法人、企業等と連携し、地域の実情に応じた多彩な活動を展開
- 長野県全域へのESDの普及に向け、長野県教育委員会をはじめとした県の関係部署との連携を強化
- 成果発表 & 交流会を2ヶ所(長野市・松本市)で開催し、学校、諸団体に広く成果発信の機会を提供



**信州ESDコンソーシアムがめざすもの**

- 1 ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
- 2 ESDに関わる人たちの交流の場を創出
- 3 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
- 4 コンソーシアムや関係組織の成果の発信
- 5 ESD関連情報を共有する場を提供

信州大学教育学部では「環境マインドを持った人材育成」を通して、ESD活動を理解して積極的に取り組める人材の育成をおこなっています。

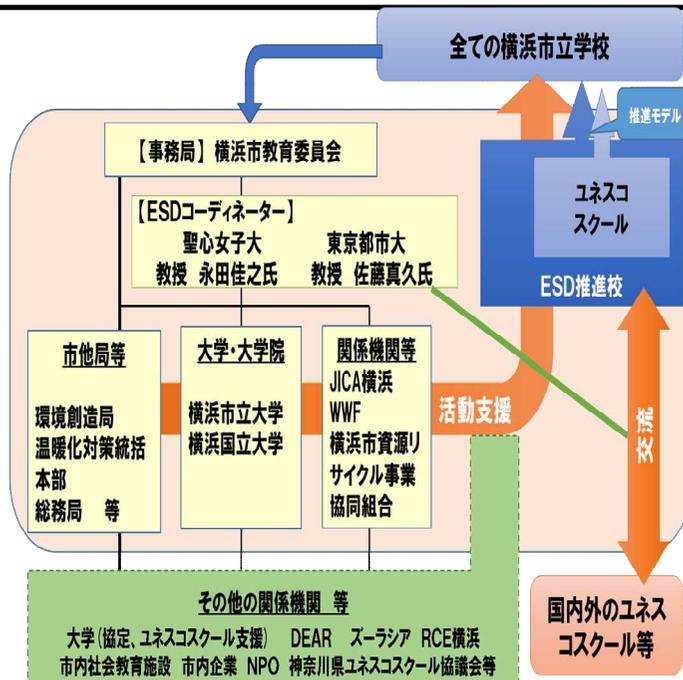
【連絡先】信州ESDコンソーシアム事務局(信州大学教育学部内)  
 TEL:026-238-4034 FAX:026-234-5540 (信州大学教育学部会計係)  
 Mail:kyoesd[α]shinshu-u.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 横浜市ESD推進コンソーシアム

## (代表団体 横浜市教育委員会)

- 「見直す つなげる 変わる 地域で、世界へ」というESDの視点から、カリキュラム・デザイン(教育課程の編成)と学校運営の見直しをおこない、ESDの浸透を図っています。
- ESDの視点を取り入れて、資質・能力の整理や環境・経済・社会を統合的に捉えてクロスカリキュラムの工夫や地域の課題・消費・国際理解・防災・環境などを材とした『横浜の時間』の充実、教材の工夫や地域連携、職場環境の充実、教職員の負担軽減など学校運営の見直しをおこなっています。
- 30年度は「SDGsとつながる、学校でのESD」をテーマとし、実践や取組に臨みます。

(SDGsを学ぶ、SDGsに学ぶ、SDGsで学ぶ、SDGsと学ぶ)



**主体的・協働的で実現可能な授業づくり、学校づくり**

横浜では、カリキュラムデザインと学校運営の両面で、さらに学校が活性化するためにESDの充実をめざしています。

カリキュラムデザイン	学校運営
<ul style="list-style-type: none"> <li>ESDの視点を加えることで、単元づくりや教材づくりの充実</li> <li>教科等や「経済の時間」の充実</li> <li>教科横断的な学年並や年間指導計画等の見直し</li> <li>テーマに沿った単元や教材づくり</li> <li>子どもが身に付けたい資質・能力、態度の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもも先生もさらに活気付ける学校全体での取組</li> <li>地域と連携した学校の取組の推進</li> <li>学校が地域と共に創る「未来遺産(レガシー)」</li> <li>教職員の対話の機会を増やす工夫</li> <li>負担軽減のための工夫</li> </ul>

**ESDを考える、キーワード**

ユネスコのESDの会議でも次の言葉で、この4つのキーワードが重要だとされています

ESDを充実させる4つのレンズ

- 批判的レンズ 「見直す」
- 統合的レンズ 「つなげる」
- 寛容的レンズ 「変わる」
- 文脈的レンズ 「地域で、世界へ」

見直す: 授業や普段の生活を充実させてみましょう。学校や地域を知っていきましょう。

つなげる: 教材と、教科と教科、教員同士、学校と地域など、人・人・人・ものをつなげてみましょう。

変わる: 個人が変わると社会が変わり、社会が変われば個人も変わります。授業が、学校が、子どもや社会が、どんな変容をすることができるでしょうか。

地域で、世界へ: 身近なことは、世界のことへと広がっていきましょう。世界のことには、身近なことにつながって、取り上げていきましょう。

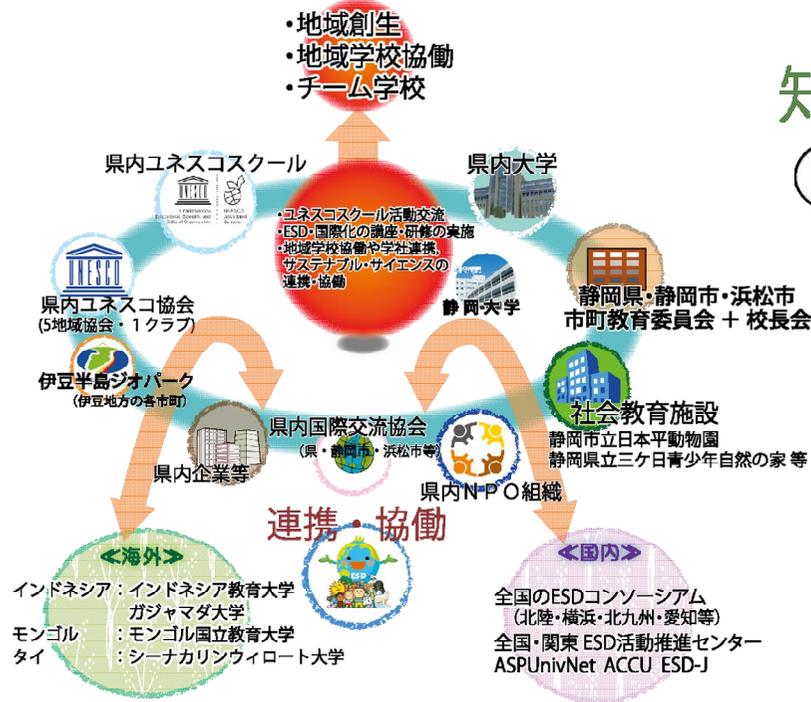
【連絡先】横浜市教育委員会 指導企画課 鈴木 前田  
 TEL:045-671-4448 FAX:045-664-5499  
 Mail:ky-esd@city.yokohama.jp



# ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム

## (代表団体 静岡大学)

- 平成28年度「啓発期」と平成29年度「金型づくり期」の2年間の取組をふまえて、平成30年度は、「ESD・国際化実践のサステナブル<持続可能>化」に取り組む。
- 「ESDカフェ」「ESD実践研修会」等のコンソーシアムの活動成果をふまえ、学生・教員・社会教育施設・NPO等が企画から参画する、大学発の「ESDの学びと実践研究のプラットフォーム構築」をめざす。
- インドネシア・タイ等の大学等と連携・協働し、「ESD・国際化と教員育成支援に関する国際会議」を静岡で開催。11月22日<木>はユネスコスクール視察、23日<金:祝日>は国際会議を行う。



### コンソーシアム組織図

### 知的支援・助言

#### ESD 実践研修会

- WS等を通じての実践方法の共有 <年4回程度>

### 育成

- 教員免許更新講習
- 教育学部学生への講義
- 社会に開かれた学びプロジェクト

### 今年度の活動予定

### つなげる

#### 国際会議

- <タイ・インドネシア等と連携・協働>

#### 国際化・ESDカフェ

- カフェ形式の学習会 <年3, 4回(県東中西部)>

#### ESD 実践研究会

- 大学へ講師を招く形の研究会 <年4回程度>

### 発掘・発信

【連絡先】 静岡大学教育学部教授 梅澤 収  
 TEL: 054-238-4699  
 Mail: umezawa.osamu[α]shizuoka.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

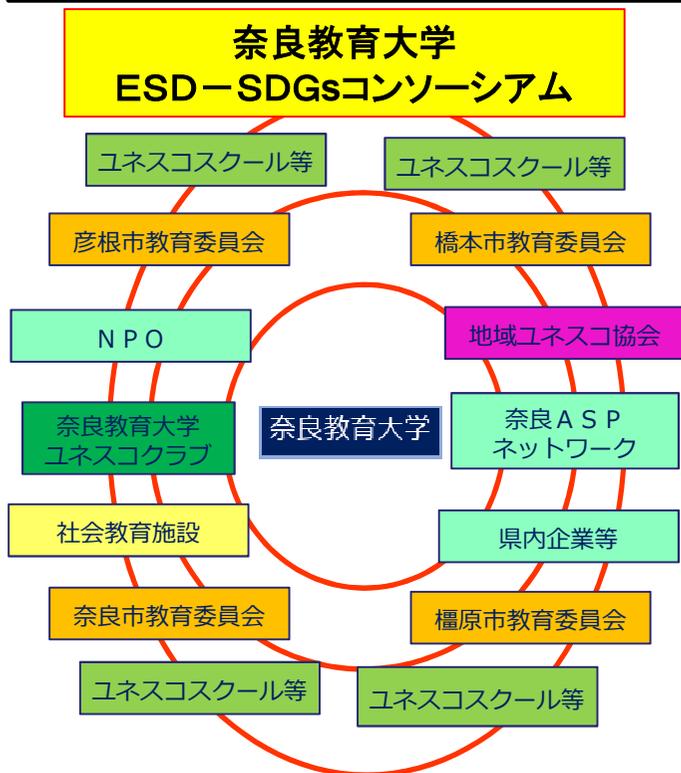


文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 奈良教育大学ESD-SDGsコンソーシアム

## (代表団体 奈良教育大学)

- SDGsの目標達成、及び平成30年度公示の学習指導要領に即した教育活動を展開するために、学校現場でESDを適切に指導できる教員の育成が喫緊の課題です。
- 奈良教育大学では現職教員のESD指導力養成を目的とした「ESDティーチャープログラム」を開発し、奈良県及び和歌山県橋本市で実施しており、すでに34名のESDティーチャーを認証しました。
- 今年度よりこの「ESDティーチャープログラム」の全国展開を図り、ESDティーチャーの規模拡大とネットワーク化を目指しています。(30年度:北海道羅臼町・仙台市・東京都・奈良県広陵町・長崎市)



### ☆ESDティーチャープログラム

SDGsの理解促進  
ESDの理論研修  
優良実践事例の分析  
ESD学習指導案の作成・  
相互検討



ESDティーチャー  
の認証



ESDを適切に計画し指導できる教員に求められる能力・態度



【連絡先】奈良教育大学 次世代教員養成センター 准教授 中澤 静男  
TEL:0742-27-9269 FAX:0742-27-9269  
Mail:nakazawa[α]nara-edu.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 広島ESDコンソーシアム

## (代表団体 広島大学)

- 国際平和都市広島を地元としていることから、ユネスコの設立目的とも合致した、世界平和に貢献できるグローバル人材を育成する教育プログラム創造のために、現職教員と大学生に対して平和教育や国際理解教育をテーマとした研修と発表、情報交換の機会を企画します。
- ESDを普及させるリーダーを養成する活動において、ESDとして本来取りあげられている能力(コンピテンシー)育成のために、先進的なコンテンツ学習にコンピテンシーを組み込んだ日本的なESDの学習の開発と理論研究を進めます。

**大学**

福山市立大学  
広島文化学園大学  
安田女子大学  
広島文教女子大学  
広島修道大学  
広島市立大学

**企業**

マツダ 中国電力  
広島ガス 中国新聞社

**機関**

広島県教育委員会  
広島市教育委員会  
東広島市教育委員会  
広島県ユネスコ連絡協議会  
広島県ユネスコスクール連絡協議会  
広島市青少年センター  
EPOちゅうごく  
JICA中国

### 平成30年度活動内容

第1回ESD研修会 平成30年7月27日(金)  
「グローバル人材を育成するために必要なコンピテンシーとは」

### 講師等

後藤 顕一 氏(東洋大学)  
酒井 雅子 氏(東京成徳大学)

### 会場

広島大学  
東広島キャンパス

第2回ESD研修会 平成30年11月11日(日)  
「コミュニケーション能力育成のための授業づくり」

難波 博孝 氏(広島大学)  
佐藤 明宏 氏(香川大学)  
昌子 佳広 氏(茨城大学)

広島文教女子大学

第1回特別講演会 平成30年11月18日(日)  
「国際理解のために必要なコンピテンシーの育成」

高橋 美由紀 氏(愛知教育大学)

合人社ウエンディ  
ひと・まちプラザ  
(予定)

広島県ユネスコESD大賞表彰式 平成30年12月16日(日)

受賞校の表彰と実践発表

広島大学  
東広島キャンパス

第3回ESD研修会 平成30年12月16日(日)  
「ESDの評価について」

佐藤 真久 氏(東京都市大学)  
ユネスコスクールの実践発表

広島大学  
東広島キャンパス

第2回特別講演会 平成30年12月22日(土)

澤井 陽介 氏(国士舘大学)

広島文教女子大学



そのほかにも、広島ガスと共同で開発したエネルギー教育の副教材を用いた出前授業への協力、ユネスコスクールへの講師派遣、コンソーシアム間の交流活動などを行います。

【連絡先】広島大学副理事・大学院教育学研究科教授 由井 義通  
TEL:082-424-6804 URL:<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~unesco/>  
Mail:unesco16[α]hiroshima-u.ac.jp (※[α]を@にして送信ください)

# 新居浜ESD-SDGsコンソーシアム

## (代表団体 新居浜市教育委員会)

- これまでの事業で形成したコンソーシアムをさらに発展させ、より多様なステークスホルダーが参画した「ESD-SDGsコンソーシアム」を形成し、ESDの深化を図る様々な取組を通じて、持続可能な地域の担い手を育成する。
- 防災、市内及び周辺部の海や山及び都市環境の整備・保全をはじめとするSDGs11(住みよいまちづくり)・3(健康と福祉)・4(質の高い教育)を中心とした地域課題の達成に寄与する。さらに、その成果を四国全域に普及することを目指す。

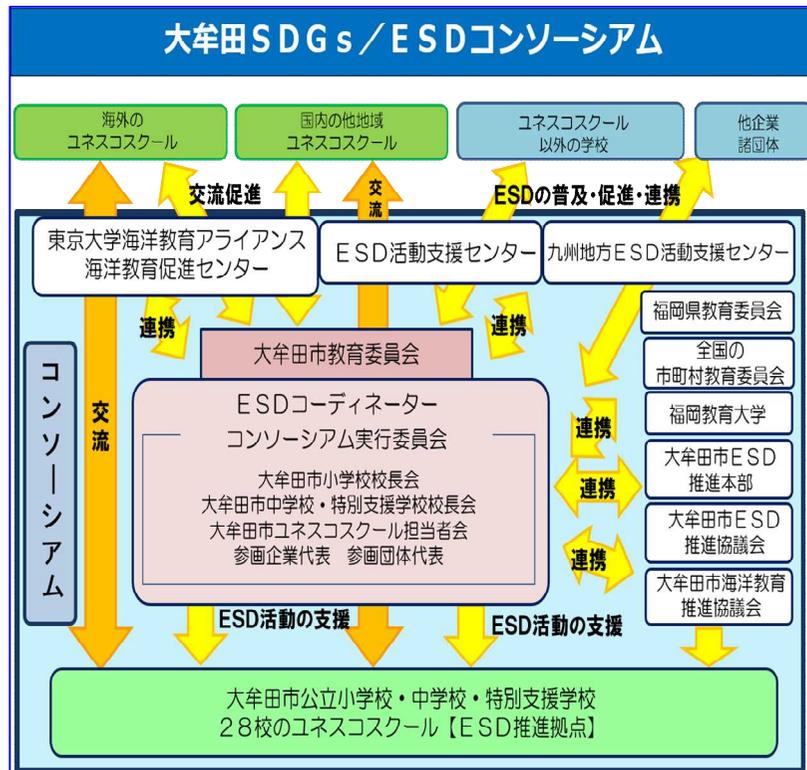


【連絡先】新居浜市教育委員会事務局 学校教育課 指導主幹 矢野誠治  
 TEL:0897-65-1301 FAX:0897-65-1306  
 Mail:s23468@city.niihama.lg.jp

# 大牟田SDGs／ESDコンソーシアム

## (代表団体 大牟田市教育委員会)

- 大牟田市教育委員会が中心となり、全国のSDGs/ESDを推進する教育委員会とのコンソーシアムを形成し、その取組の交流を図り、全国のESDのさらなる普及発展と、その深化を通じたSDGsの達成に貢献する。
- 全国及び各地域での学校教育におけるSDGs/ESDのさらなる充実を図るために、本市教育委員会が中心となり、SDGs/ESDを推進する国内の関係機関・団体等と連携し、学校現場でのSDGs/ESDの推進および指導等を中核となって担う教員を養成するプログラムを開発する。



### 【今年度の活動内容】

- SDGs/ESD教育委員会コンソーシアムの形成
- ESDマスターティーチャープログラムの開発



「ユネスコスクール・ESD教育委員会サミット」

### 【今年度の活動に関する過去の取組】

- 大牟田市は平成23年度末に市内全ての小学校、中学校、特別支援学校がユネスコスクールに加盟している。平成26年度より、文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」の採択団体として、国内のユネスコスクールを所管する教育委員会の参加による「ユネスコスクール・ESD支援教育委員会サミット」「ユネスコスクール・ESD研修会」を開催してきた。
- 毎年1月に「ユネスコスクール子どもサミット」を開催
- 平成29年：毎年1月17日を「大牟田市ユネスコスクールの日」と制定
- 平成29年：「ユネスコスクール全国大会」の開催
- 平成30年：「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言



「大牟田市ユネスコスクールの日」制定宣言



「ユネスコスクール全国大会」



「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言

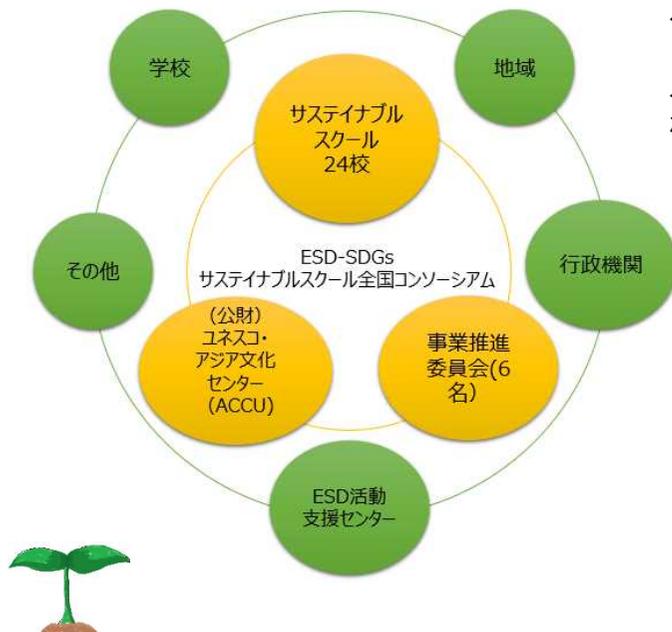
【連絡先】大牟田市教育委員会 学校教育課指導室 総括指導主事 小宮武士  
 TEL:0944-41-2861 FAX:0944-41-2862  
 Mail:t-komiya@st.city.omuta.fukuoka.jp

# サステイナブルスクール発ESD-SDGs全国コンソーシアム (代表団体 (公財)ユネスコ・アジア文化センター)

サステイナブルスクールとは、ホールスクールアプローチを軸に学校内外へESDを普及する推進拠点です。サステイナブルスクールは、学校全体でESDに取り組む文化を醸成することで、ESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくことを最終的なゴールとしています。これまで2年間「ESD重点校形成事業※」として活動を深めてきましたが、今年度は集大成の年としてこれまでの活動をさらに広く発信していきます。コンソーシアムとしての特性を活かし、下記構成団体との力強い連携のもと、より魅力的な活動に育んでいきます。

※ESD重点校形成事業については下記冊子をご覧ください。

## コンソーシアム構成図



## 平成30年度のサステイナブルスクールの取組

学校に関わる全ての人たちが腑に落ちる「ビジョン」中心に据え、そこに活動を繋げていくツール「ホールスクールアプローチ・デザインシート」を活用し、ESDのさらなる推進を図っています。12月には報告会を実施し、3年間の取組を広く発信する場をもちます。また、サステイナブルスクール同士の交流や各校の先生にスポットライトを当てたニュースレターを年2回発行するなど、サステイナブルスクール情報を定期的に発信していきます。

## サステイナブルスクールのこれまでの取組



平成28年度発行 平成29年度発行

「ESD重点校形成事業」の詳しい活動はこちらの冊子をご覧ください！認定校24校の情報などはこちらから

ユネスコスクール公式ウェブサイト  
(<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)にサステイナブルスクール特設ページがオープン！これまでの制作物をここからダウンロードもできます！

ユネスコスクール公式ウェブサイトトップページのバナーをクリック！



【連絡先】(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)教育協力部 藤本,篠田  
TEL:03-3269-4559 FAX:03-3269-4510  
Mail:webmaster[α]accu.or.jp (※[α]を@にして送信ください)



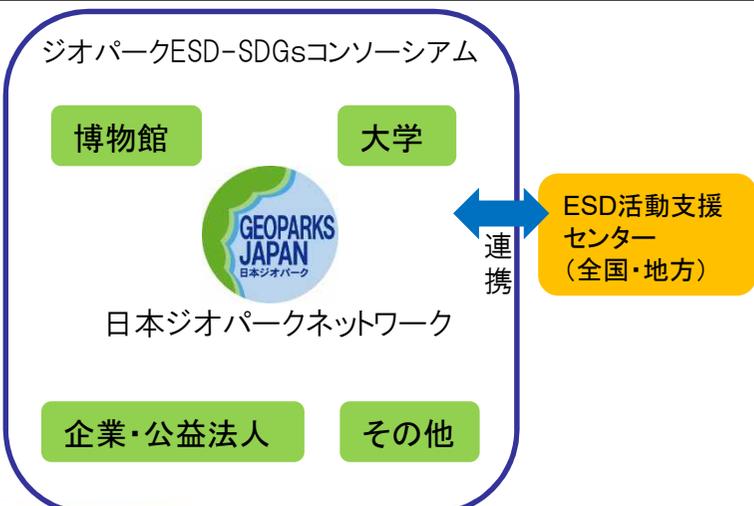
文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# ジオパークESD-SDGsコンソーシアム

(代表団体 特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク)

- ジオパークを活用したESD実践モデルを開発し、教育関係者やジオパーク関係者への普及に取り組む。5つの異なるモデルを開発する。
- ジオパークを活用した教育コンテンツ調査および教育旅行ニーズ調査を実施する。
- SDG4のターゲット4.7の達成に貢献することを目指す。



ジオパークESD-SDGsコンソーシアム	目標
①ユネスコスクール・ジオパーク活用ESDモデル	ユネスコスクールでのジオパークを活用した3パターンのESD実践モデルの開発・発信
②小中学校ジオパークESD実践モデル	小中学校での新学習指導要領に対応したジオパーク活用ESD実践モデルの開発・発信
③高校ジオパークESD実践モデル	高校での新学習指導要領に対応したジオパーク活用ESD実践モデルの開発・発信
④ミュージアムジオパークESDモデル	ミュージアムでのジオパーク活用ESD実践モデルの開発・発信
⑤ジオパークESD海外発信モデル	ESDフィールドワークノートの改善・応用とその海外発信の実践モデルを開発・発信する

【連絡先】特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク事務局 古澤  
 TEL:03-3219-2990 FAX:03-3518-9920  
 Mail:jgn\_office[α]geopark.jp (※[α]を@にして送信ください)